

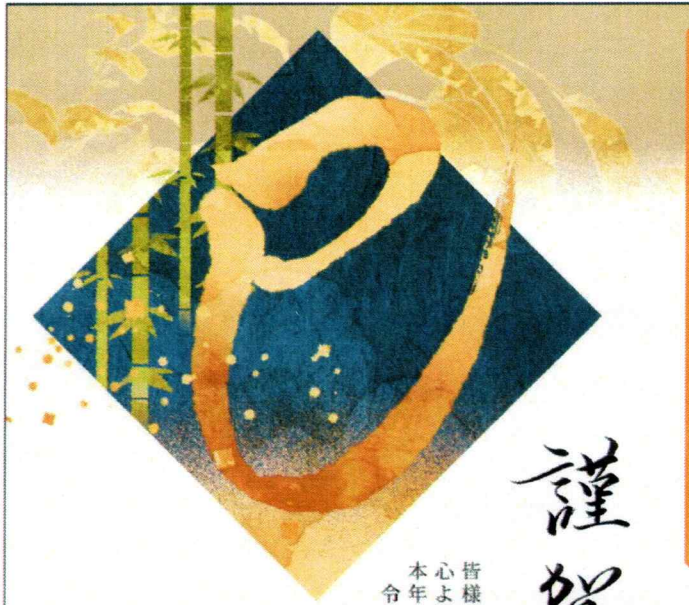
ほとけの 混和会だより

令和七年一月
東光院
東大寺

第176号

謹賀新年

皆様のご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます
本年もよろしくお願いたします
令和七年 元旦



本年度も昨年に引き
続き、「ブツダ」仏に
成ろうと言うテーマの
元に努めて参りたいと
存じます。 合掌

檀信徒の皆様にか
かれましては健やか
な新春をお迎えの事
とお慶び申し上げます。

昨年「慈悲」の
御心「慈愛心」を共
に育む事が出来まし
た。大変有り難い事
存じます。謹み御礼
申し上げます。

「慈悲」これは、私達がこの世
に於いても又来世に有っても、
安心に満たされる日々を歩む
上に於いて、最も大切な御心で
あります。

この世も、来世も真の幸は、
この慈愛心の完成に努める行い
の延長に有ります。

よって安心と喜びに満たされ
る環境を築いて行くには、今この
世に於いて慈悲の御心を育む事
が最も尊い事で有ります。

慈悲、この「慈愛心」に目覚め
た心境が悟りであって、最初は
小さな悟りであっても、この小
さな悟りを少しずつ育んで行く
と、次第に大きな慈愛心に変わ
って行きます。

私達はこの慈愛心を因とし、
大自然の営みの中で様々な出会
いを縁として「因と縁」によつて
導かれて行きます。

そして「善因善果」慈悲の御
心を他に施すことが「善因」と
成つて良き縁が巡り巡つて真の
幸と言う「善果」と成ります。

この真理に目覚め大いなる慈
愛心を会得された人を「ブツダ」
と言ひ、又私達は仏様と言つて
おります。

よって、本年度も慈悲の御心
を共に育みながら自ら「ブツダ」
いわゆる「仏」と成れるよう努め
て参りたいと存じます。

しかし、仏に成ると言つても
簡単では有りません。

仏に成る、いわゆる「ブツダ」
の境地に至るには、己を迷わす
様々な誘惑に負けないように
努めなければ成りません。

私達の社会は、己の迷いと

欲望をかき立てる様々な誘惑
に満ちあふれております。

「物欲・愛欲・名誉欲」等、言い
出したら切りがありませんが、
このような己の思いに執着した
り、とらわれた時、己の思いに
己自身がしばられて、自ら迷い
や苦しみを招いてしまいます。

よって何事にもとらわれず、
何事にも執着しない、広い広い
心が会得出来るように努めて
居ると人々を慈しむ慈悲の御
心が自然に抱けて参ります。

そこで、共に他の幸を念じ、
他の幸が喜びと成るように、又
大きな慈愛心が抱けるように
共に精進して行きましょうと、
共に誓いをたてて建立されたの
が左記の「お誓い地藏」です。

平成十一年十二月十二日
故横尾忠さん手作りのお地藏
さんの開眼供養が行われまし
た。東光院の本堂前にお祭り
されて居ます。



お誓い地藏



今回は千支の巳(蛇)が登場する仏教説話を紹介します。

●毒蛇の教え

昔々インドに壺いっばいに黄金を集めるのが好きな男がいました。長年集め続け壺が7つになる頃、男は黄金を使う事無く病気で亡くなってしまいました。

男は黄金が心配で気が付くと毒蛇に生まれ変わりがつきてまた毒蛇に生まれ...と気が付くと蛇にしか生まれ変わる事が出来ませんでした。

長い年月が経ち、男は何度も毒蛇に生まれ変わるのには黄金に執着しすぎているからだを悟り、黄金を手放す決心をします。蛇は通りかかった村人に「この先に黄金の入った壺を修行者の所に連れて行って供養をして欲しい。」と言いました。



村人は早速修行者の所へ出向き話を聞いて、後日供養の場を設ける事となりました。

そして当日、蛇は村場へ向かいます。その道中、通りすがりの人々が村人を労いや挨拶をするも、村人は素知らぬ顔で通り過ぎてしましました。その行動に蛇は「見知らぬ人や身分に蛇は関係なく等しく慈悲の心を持つて接しなさい。」と説き聞かせると村人反省しました。やがて修行場に辿り着くと修行者達は蛇のため銘を受け、全ての黄金を渡すと蛇は天界へ生まれ変わります。こちら、お釈迦様の弟子がお釈迦様が謙虚な理由を尋ねたとき、お釈迦様は前世で村人だったとき、毒蛇から戒められたからだとこのお話をされたそうです。このお話は物への執着する心を毒を持つ蛇に例えると共に、謙虚である事の大切さを説いています。私達も気が付かないように毒蛇に気をつけたいですね。



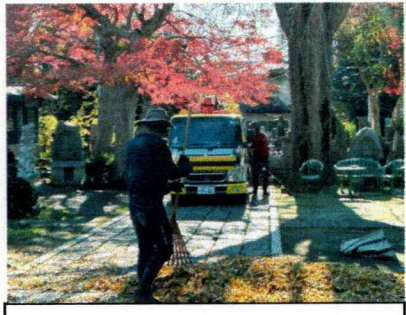
施而不語
この書は私の師匠 吉山亮薫様の書であります。「施して知らず」と読みます。この言葉はお釈迦様の説法の一説でありますが、元々は対句になっておりまして「受而不忘 施而不語」と成っております。誰かに何かをしてもらったら、その恩を忘れてはならない。そして誰かに何かをしてあげても誇らしげに、又恩着せがましく語ってはならないと言う意味です。しかし師匠はその言葉をあえて「施して知らず」と書き直して記されております。「語る」を「知らず」に替えたのは、何か良いことをしてあげたと語る前に忘れる方がよいと言っておられるのです。良いですね。誰かに情けをかけても、感謝すら求めず、サラサラと忘れて行く。この真の慈悲の御心、私自身も会得したいと存じます。

施して知らず



境内の掃き掃除
境内の掃き掃除
ます。有り難い
た。有り難い
た。有り難い
た。有り難い

仏器を磨いて頂く
加頂いた人、
始めて参
加して毎年
参加して下
さる人、
世代を超え
て様々な
人々が共に
善因の功德
を巡らす事
が出来ます。



12/9 東大寺境内の掃除を
船尾の岩井植木様より
ご奉仕賜りました。

様々なご奉仕有ったり
難う御座いました

十二月二十二日(日曜)
恒例と成った東光院境内の大掃除、沢山の人々のご奉仕を賜りました。